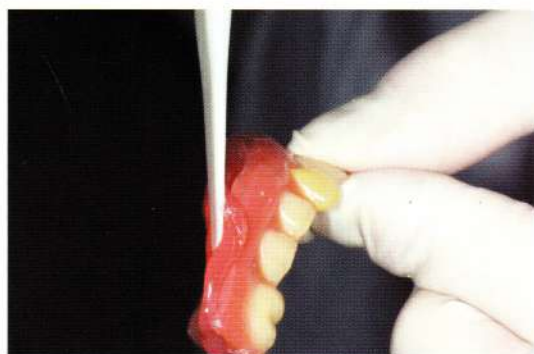


日本歯科医師会雑誌 10

THE JOURNAL OF THE JAPAN DENTAL ASSOCIATION



メッセージ 堀執行部「28の課題」と広報のこれから 青柳裕易

クリニカル

歯周組織再生療法におけるコーンビームCTの応用

小野 晴彦

シリーズ●身近な臨床

軟質床用材料を用いたリラインの要点

櫻井 薫/上田 貴之

サイエンス

犯罪捜査におけるアスパラギン酸ラセミ化法による年齢推定

山田 良広

トピックス

鼻腔悪性黒色腫治療における口腔粘膜保護装置の一工夫

～重粒子線およびDAV療法を経験して～ 木下 善隆

人間と科学 映画とイギリス史

「ぼくの国、パパの国」 近藤 和彦

内の目・外の目 小児病院から見た一億総活躍社会への課題 木下 樹

レポート2016 神戸コミュニケ 広多 勤

フォーラム 働く女性歯科医師24時間

私がボランティア活動から得ているもの 山元 浩美

都道府県学術レポート 千葉県/兵庫県/広島県/熊本県

国際交流だより 第8回アジア歯科技官会議 高田淳子

歯周組織再生療法における コーンビーム CT の応用

小野 晴彦



おの はるひこ

▶おの歯科医院院長（大分県大分市開業） ▶1994年広島大学歯学部卒業、94年同大学第一口腔外科入局、97年横山歯科医院勤務、2000年より現職 ▶1968年生まれ、大分県出身 ▶論文：「インプラント周囲炎の予防に配慮したインプラント治療—原因が発生する3つの時期での対応」術前に必要な診査・診断、歯周病治療で考慮すべきこと（共著）、骨レベルをコントロールする—清掃しやすい歯周環境構築のために「骨レベル」を再考する

日歯ホームページメンバーズルーム内「オンデマンド配信サービス」および「Eシステム（会員用研修教材）」に掲載する本論文の写真・図表（の一部）はカラー扱いとなりますのでご参照ください。

要 約

歯科用コーンビーム CT を術前診断に用いることは、歯周組織再生療法に有効である。外科処置前に骨欠損形態を詳しく知ることができるため、根面をどのようにデブライドメントし、どのようなフラップデザインにし、再生材料は何を選択するかを決めることができる。つまり、そのケースが再生療法の適応症か否かを診断し、より合併症の少ない正確な治療戦略を立てることが可能となる。

キーワード

歯周組織再生療法／治療戦略／コーンビーム CT

1. はじめに

再生療法はより確実性を増している

歯周組織再生療法が臨床に应用可能となってから、30年が経とうとしている。日本国内でも GTR 法として紹介され、25年以上経過した症例も存在する。その後エナメルマトリックスタンパク質（エムドゲイン®）が1998年に認可され、我々開業医の間でも再生療法が広く応用されるようになってきた。この間、先達の類い稀なる努力の結果、適応症の選択基準、術式の整理がなされ、その成功率も徐々に向上してきた¹⁾。

具体的には、まず GTR 膜（遮断膜、保護膜）を用いた歯周組織再生誘導法が行われていた時代に、再生療法の適応症が示されてきた。患者、局所の具備すべき条件、骨欠損形態、軟組織の状態等、歯周組織再生にとって何が有利に働き、排除すべき条件は何かが分かってきた。さらに、エムドゲイン®を応用した術式により、合併症を避け、より確実な術式へ、また多数